

ぺしやんこの紙風船の時間かな

藤田湘子

紙風船の形と色を考えた人はすごい、と思う。そしてあの手触り、息を吹きかけて空中に送り出すときの乾いた音も好き。ひとしきり遊んだ後、置き去りにされて忘れ去られる静けさもいい。

この紙風船は息を吹き入れられる前か後か。紙風船は息を入れてもらって空気を孕んだあの形こそ美しい、と思っていた私は、掲句を初めて読んだ時「ぺしやんこ」は手にとられる時を待っている新さらのものを想像していた。でも、今は、空気が抜けて押しつぶされて「ぺしやんこ」になっている状態かもしれない、とも思う。「ぺしやんこ」に「時間」を感じた湘子に思いをはせると、そこに「ぺしやんこの湘子」を感じてしまったからか。

2003年 (his作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京